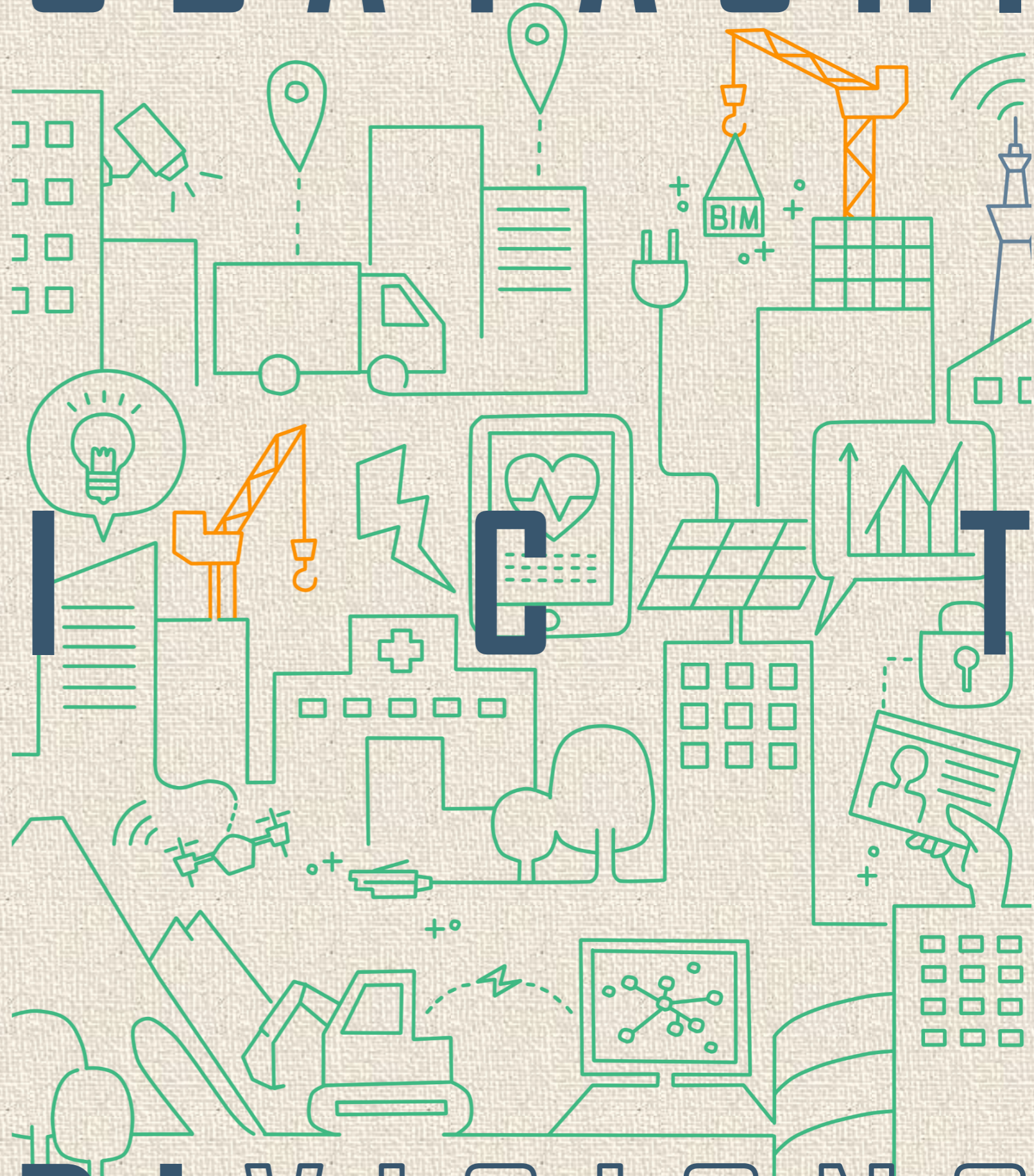


# O B A Y A S H I



# D I V I S I O N S



OBAYASHI  
大林組  
本社 デジタル推進室  
〒108-8502 東京都港区港南2-15-2 品川インターシティB棟  
TEL : 03-5769-1088  
E-mail : [ict\\_recruit@ml.obayashi.co.jp](mailto:ict_recruit@ml.obayashi.co.jp)  
<http://www.obayashi.co.jp>



# 建設業の明日を変える

建設業は慢性的な人手不足、そして働き方改革への機運の高まりを背景に、これまでの仕事の進め方を見直すことが求められています。

特に近年はAI、IoT、ロボティクス技術の発展とBIMの普及もあり、ICTの活用に今まで以上の大きな期待が寄せられています。

我々は大林組のDX部門として最先端の技術を活用した“ものづくり”とスマートなワークスタイルを提案し続け、建設業のリーディングカンパニーとして未来を創造していきます。







# Contents

05 DX History of OBAYASHI

07 DX部門の取り組み紹介

13 社員紹介

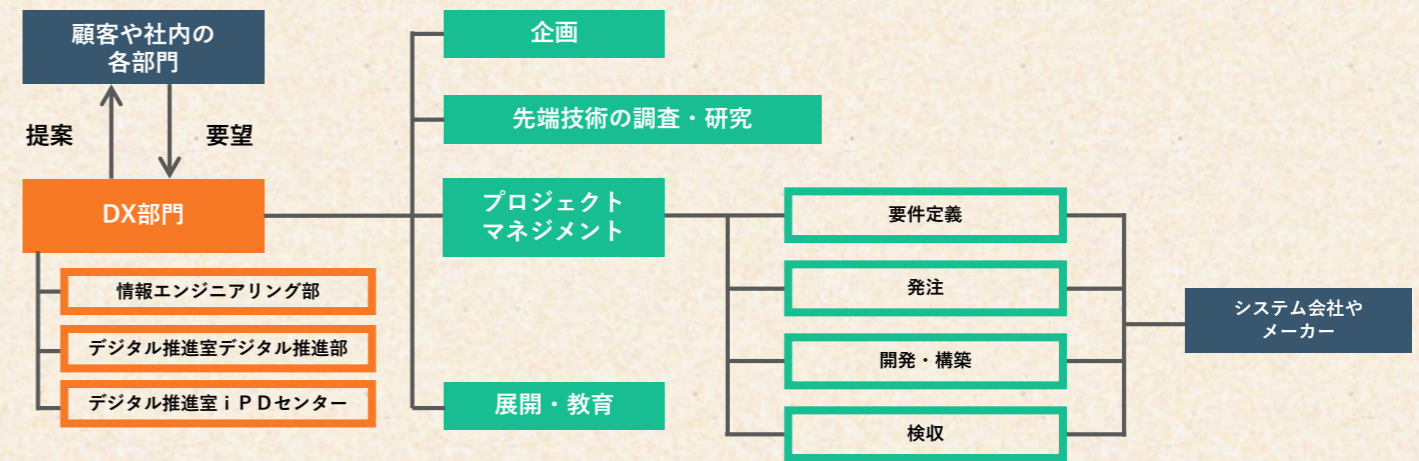
15 よくある質問 – FAQ –



# DX History of OBAYA SHI

## 大林組DX部門の役割

大林組のDX部門は、多様化する社会や顧客のニーズに応えるため、常に最先端の情報通信技術を幅広く探求し、様々なシステム会社のソリューションやメーカー製品を組み合わせ、最適なシステムを構築しています。このため、顧客や社内各部門の要望を具現化するための企画やプロジェクトマネジメントを中心とする業務を行っています。このような点が、大林組のDX部門と情報システム会社との異なるポイントです。



### 東京本社に電子計算センターを設置

※情報ネットワーク部と情報ソリューション部の前身組織

### グローバルICT推進室を設置

ICTを重要な経営資源と捉え、国内外のグローバルな事業活動におけるICTの活用を推進 (IT戦略企画室、情報ソリューション部、情報ネットワーク部を統合)

### iPad3,000台導入

現場で施工管理を行う技術系職員を対象にタブレット端末3,000台を一斉導入

### iPhoneを会社支給の携帯電話として標準化

標準の携帯電話をiPhoneに変更し、モバイルワークスタイルを推進

### 情報エンジニアリング部を設置

顧客のニーズに合った先端ICTを提案し、建物に導入するサービスを提供

### Office365を導入

同業他社に先駆けてOffice365を導入し、クラウドサービスの利用を開始

### デジタル推進室を設置

経営基盤のデジタル化、施工現場を含む生産活動及び営業活動のデジタル化を推進 (グローバルICT推進室、iPDセンターを統合)

1979

1995

2000

2001

2010

2011

2012

2013

2017

2019

2020

インターネットと電子メールの利用を開始

### IT戦略企画室を設置

情報システムに関する施策の立案と推進を担当

### BIM推進室を設置

BIMソフトの本格導入を開始。Build Live Tokyoでは最優秀賞を受賞 (Build Live Chiba 2012でも最優秀賞を受賞)

### iPad版の配筋検査システムを自社開発

タブレットという新デバイスの普及を見越し、配筋検査業務用のアプリを自社で開発

### BIM推進室をPDセンターへ改組

### IoT・AIを活用したビルマネジメントシステム、BIMを活用した建物情報プラットフォームを開発

IoT・AI技術を活用してオフィス環境を最適に管理する「WellnessBOX」や、BIMを中核にした建物情報の統合プラットフォーム「BIMWill」を開発

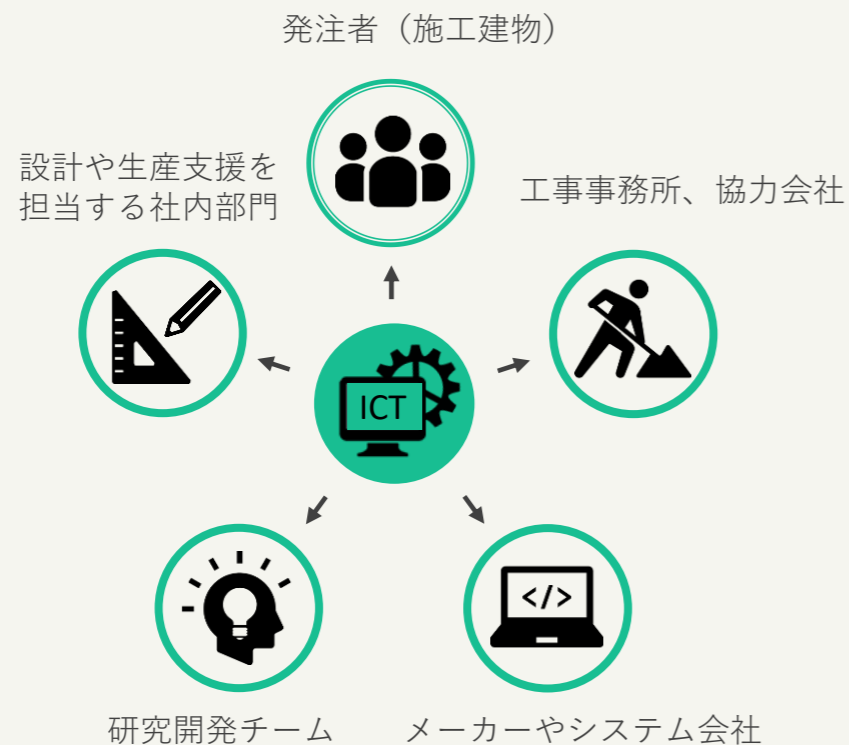
### PDセンターをiPDセンターへ改組

BIMモデルの供給とマネジメント





# 情報エンジニアリング部



## ICT導入全般をマネジメント

情報エンジニアリング部は、「施設整備とともに情報システムを構築したい」という顧客のニーズに応えるために設立されました。施設へのICT導入を検討している顧客に対し、専門知識を持つ当社が中心となって施設ICTの企画から導入までのトータルマネジメントを提供しています。

ICT導入によって建物の価値を高め、顧客や施設利用者に便利で安全・安心な環境を提供することを目指すとともに、社会の高度化・多様化するニーズに対応することによって、本業である建設事業の競争力を向上させることを目指しています。

### 顧客ニーズ

施設整備に合わせ、情報システムを構築したい



### 情報エンジニアリング部

ICT導入全般をトータルマネジメント

(顧客) 建物の価値向上  
(大林組) 事業の競争力向上

## 情報エンジニアリング部の働き方

ICTと建築の専門分野に精通する部署として、顧客と設計・施工担当者との橋渡し役を担い、プロジェクトを主導的に推し進めます。顧客への提案からシステム導入時における工事事務所や専門業者との調整まで、多くの関係者と齟齬なくコミュニケーションをとり、マネージャーとしてチームでプロジェクトを取り纏めます。

また、テクノロジーが日進月歩で進化化するICTに関する知識・技術を吸収することも重要です。展示会やワークショップに参加して知見を深め、技術開発にも積極的に取り組んで、新たに提案できる技術の開発も行っています。

## ゼネコンとしての強み

「建物とICTの同時施工」、「マネジメント力」、「調達力」が大きな強みであり、ICT導入を大林組が請け負うことで顧客に次のような付加価値をもたらします。

- ① 投資効果を最大化し、良く・安くを実現
- ② 窓口の一本化による顧客の負担軽減
- ③ 同時施工による全体工期の短縮
- ④ 品質管理とセキュリティ対策
- ⑤ 将来の更新や増設、システム拡張に対応

## 現在の取り組み

### <トータルソリューション>

～企画から導入まで一貫したソリューションを提供～

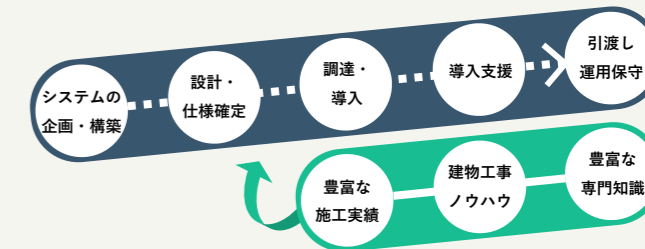
情報エンジニアリング部では、プロジェクト初期段階から企画・設計・施工・運営段階に至るまで一貫して携わっています。豊富な実績・知識と、総合建設業で培ったマネジメント力でトータルソリューションを提供できることが大きな強みです。

### <ICT全般の導入>

～システムからインフラまでICT全般のソリューションを展開～

主に建物に付随するICT全般を手掛け、医療システムや教育システムといった施設特有の「**情報システム**」、プレゼンテーション設備や会議システムなどの「**AVシステム**」、ネットワークや電話などICTの基盤となる「**ICTインフラ**」、監視カメラやカードリーダーなどの「**施設セキュリティ**」などの導入を行っています。

取組み案件も多岐に渡り、医療施設、教育施設、商業施設、オフィスビル、データセンター、研究所など、幅広い分野での実績があり、新規分野の開拓にも積極的に取り組んでいます。



### 情報システムの導入



医療施設、介護施設、生産施設、教育施設、商業施設

### AVシステムの導入



プレゼンテーション設備、デジタルサイネージ、コンピュータ教室

### ICTインフラの構築



サーバールーム、ネットワーク、電話設備、端末・サーバの移設/設定

### 施設セキュリティの構築



監視カメラ・入室管理システム、位置情報把握技術、車両管理

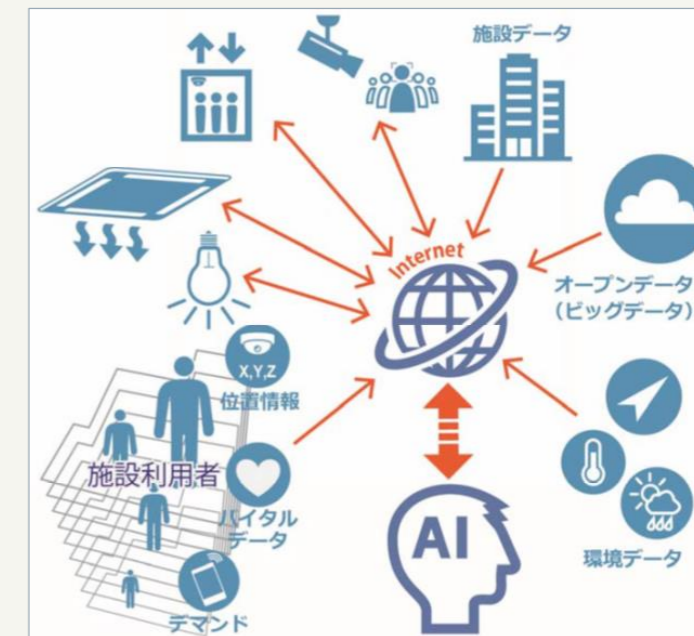
## これからの取り組み

当部ではIoT・AIを活用した最先端システムの導入にも積極的に取り組んでいます。実際にオフィスビルへ導入し運用を開始した「利用者の快適性を高めるIoTシステム (WellnessBOX)」はその一例です。

WellnessBOXでは、センサーから得た室内の温度や明るさなどの環境情報をクラウド上に集約して見える化し、建物の利用者はスマートフォンやパソコンから好みの温熱・光環境が申告できます。このため、これまで見えていなかった一人ひとりの快適感が把握できるようになり、AIを活用した最適な建物制御が行えるようになりました。

その他にも、WellnessBOXではエレベーター利用者のデータを基にした最適運行制御やトイレの使用状況の表示など、最新のIoT・AI技術を活用したシステムを構築し実際の建物に導入しています。

このように建物設備と融合した最先端のICTソリューションを提供できるのが大林組の強みであり、建築・設備設計者と連携してIoT・AIの活用に努めています。今後もICTを軸に幅広く社会に貢献することを目指します。



オフィスの快適性を高めるIoTシステム「WellnessBOX」  
個人の快適性・利便性を高め、ウェルネスな観点からもさまざまなサービスを提供

# iPDセンター



## 建設プロセスの新しいプラットフォームを支える

BIMとは、Building Information Modeling の略のことで、建物の3次元の形状モデルに、属性情報が付与されたデータベースを表します。

iPDセンターの”iPD”は、”integrated Product Design”の頭文字から取ったものです。

iPDセンターの使命は、BIMを導入することで既存の業務プロセスを改革して生産性を向上させるとともに、より高品質な建物をお客様に提供することにより、顧客の満足度を向上させることです。

大林組では設計部門と施工部門の両方を持つ総合建設業の強みを活かして、プロジェクトの川上から川下まで、BIMデータを受け渡し活用していく**BIMの一貫活用**を目指しています。

## つくる・広める・ととのえる

iPDセンターは、大きく「制作第一部」「制作第二部」「制作第三部」「技術管理部」の4つの部から構成され、様々な分野出身の職員が集まっています。それぞれの部が協働し、iPDセンター全体としてBIMの一貫活用に向けた取り組みを進めています。

制作各部では、BIMモデルの実務部門への供給およびモデルのマネジメントを行っています。制作第一部は東日本のプロジェクトを中心に担当、制作第二部は設備分野と土木分野を担当、制作第三部は大阪を拠点として、西日本のプロジェクトを主として担当しています。技術管理部では、モデリングルールの策定やBIM部品の整備、クラウドなどBIM利用環境の整備、BIM教育の実施や社内BIM情報公開サイトの運用・管理、各支店BIM担当者との情報交換などを行っています。



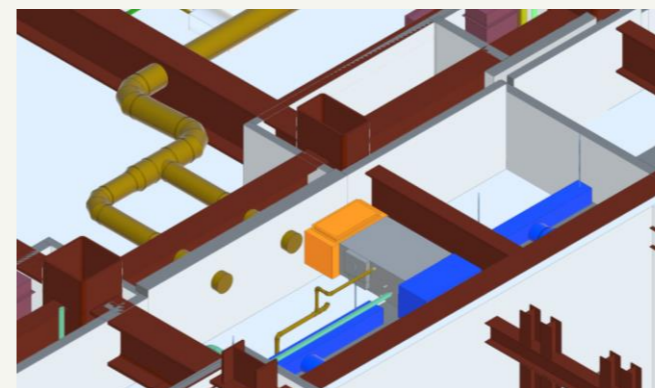
## 現在の取り組み

iPDセンターでは、近い将来BIMが業務の基盤となることを目指しながら、設計や施工など建設の実務部門がスムーズにBIMを活用していけるよう支援しています。

### <ワンモデルBIM>

#### ～仮想空間で協調設計～

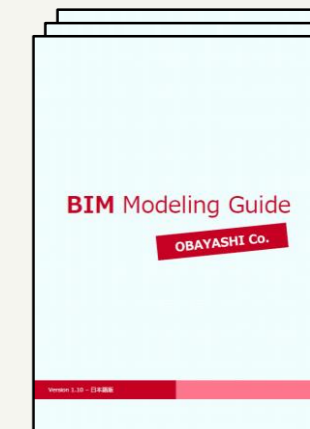
意匠、構造、設備というように、実際のプロジェクトでは分野ごとに設計が進んでいきます。ワンモデルBIMは、各分野の担当者が同じモデルを編集することで、分野間での調整を効果的に行うことができます。そして、整合がとれたモデルを次は生産段階の担当者が受け継ぎ、詳細検討や数量集計などに活用します。



### <モデリングルールの策定>

#### ～ BIMモデルの品質を確保～

iPDセンターでは大林組のモデルの入力のルールを定めています。社内の各プロジェクト間でのモデルの品質を揃えることができるため、モデル内でデータの検索や分析をする際に、異なるモデルでも同じ手法を用いることができます。担当者はモデル毎に手法を変える必要がなく、省力化につながります。



## これからの取り組み

### IoTや維持管理分野への応用

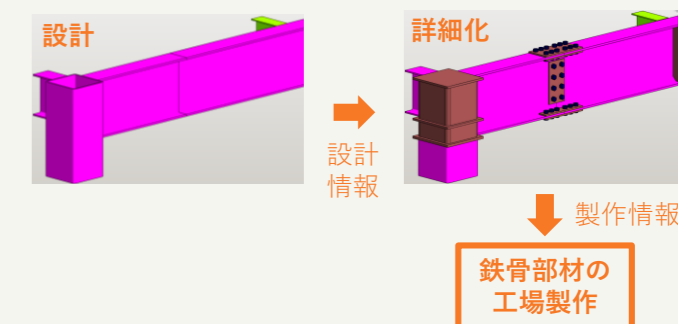
大林組では、IoTなど先端ICTとBIMとの連携や、維持管理分野も見据えたBIMの活用に取り組んでいます。

「BIMWill」は、BIMモデルを中核として、維持管理履歴など建物に関する様々な情報を、集約し繋ぐためのプラットフォームです。建物完成時のBIMモデルに各種設備機器の稼働情報や維持管理情報だけでなく、地図や天候といった外部情報、さらに建物利用者の位置情報や体感(暑い・寒いなど)情報なども集約することで、建物管理業務の効率化や高度化を図ります。



### BIMのInformation(情報)の活用

BIMは3次元的な形状情報だけでなく、属性情報を持っていることが特徴です。こういった情報を建設プロセスの各段階で適切に入力していき、有効に活用していくことが重要です。例えば、右図のように、設計段階で決めた鉄骨の仕様を基に、鉄骨製作会社が接合部など細部のデータを入力し、工場製作まで繋げるというフローがあります。川上から川下へうまく情報を流していくことは、デジタルファブリケーションやロボティクスといった分野への応用の可能性を広げます。







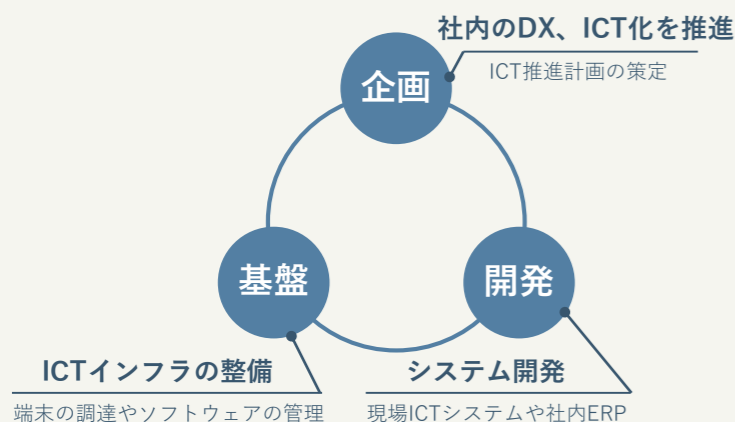
# デジタル推進部



## デジタル推進部の3つの使命

デジタル推進第一部、第二部には9の課が設置され、各課が連携しながらDX施策、ICT施策の立案推進、業務システムの開発、ICT基盤の整備などの業務を行っています。今やICTと無関係な業務はなく、現場の施工管理からスタッフ部門の業務、更にはグループ会社と海外拠点も含む幅広い業務に対してソリューションを提供しています。

近年の少子化や働き方改革を背景に抜本的な業務改善が急務となる中、デジタル推進部は既存の課題を解決するだけでなく、先端ICTの持つ可能性の探求を行いながら、大林組の事業戦略を実現するDXを推し進めています。



## デジタル推進部の働き方

デジタル推進部での主な仕事は、建設現場やスタッフ部門などの社内ユーザーのニーズを的確に把握してシステム構想を取り纏め、技術力を持ったシステム開発会社やメーカーを選定して発注し、システムが完成した後に社内ユーザーに展開していくことです。

ここで必要とされるのが、プロジェクトマネージャーとしてのスキルです。工程や品質、費用の管理はもちろんですが、工程の上流からプロジェクトの方針を決定する「企画力」が求められます。またシステム開発では多くのステークホルダーが関わるため、それぞれの立場の意見を理解し調整するコミュニケーション能力も重要となります。

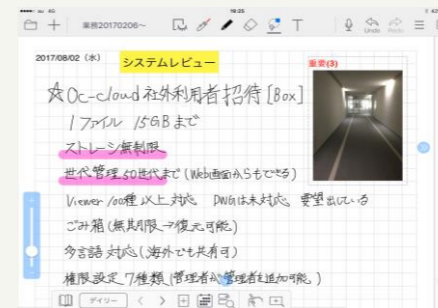
しかし、より良いシステムを構想するためには、単にマネジメントに取り組むだけではなく、日々革新が進む新しい技術やサービスについての知見を深めることも必要です。そのため、セミナーや展示会、ワークショップに足を運ぶなど、積極的に情報収集に取り組むことも重要となります。ステークホルダーから与えられる課題に対し、自らの知見やアイデアを基に最適なソリューションを積極的に提案することが求められます。

## 現在の取り組み

### <デジタルメモ帳>

～iPad一つで、手書きメモから資料作りまで～

大林組は業界内でもいち早くiPadを導入し、様々なアプリを開発してきました。その一つが「eYACHO」です。手書きのメモアプリとして開発された本アプリは、現場のニーズを基に様々な機能を実装することでiPadの利用・普及に大きく貢献しました。リリースから数年経った現在でも、デジタル推進部が主体となって現場の声を反映した新機能の実装を行っています。



(株)MetaMoJiと共同開発した「eYACHO」の画面

### <VRの活用>

～新しいデバイスを活用したシステム開発～

2016年に開発した「VRiel」は、VR空間内で施工管理教育を行うことができるツールです。これにより、これまで遠方の研修施設まで向く必要があった鉄筋の配筋検査教育をどこでも行えるようになりました。

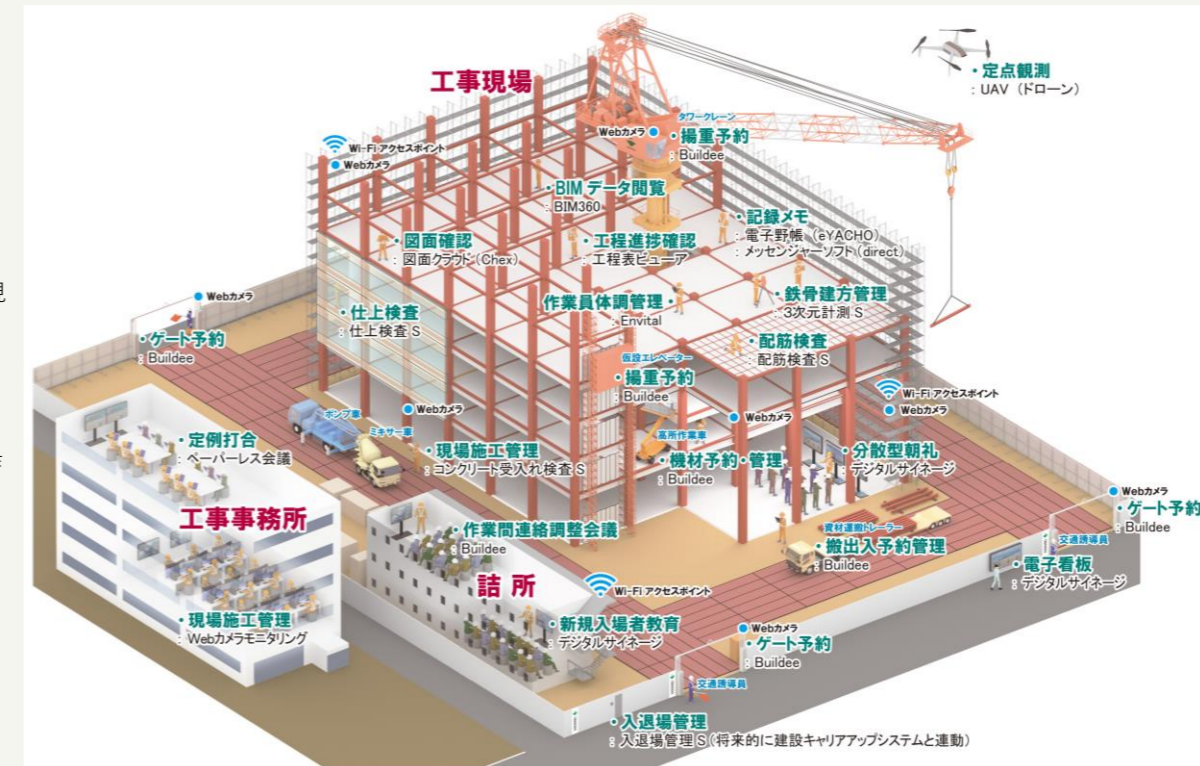
また、発注者へのプレゼンテーションとしてBIMモデルをVRで再現する取り組みも行っています。完成時の様子がイメージしやすいと好評で、最近では北海道ボールパーク（仮称）の受注に貢献しました。



VR施工管理教育ツール「VRiel」の操作風景

## これからの取り組み

デジタル推進部では、これまで建設現場が抱えてきた課題を解決するために、様々な先端ICTソリューションを現場に導入しています。例えば、毎日の工事管理で使用するeYACHOやIoTを活用した現場作業員の体調管理システム (Envital) など、工事の着工から竣工に至るまでの多くのプロセスで役立つソリューションを開発し実用化しています。



先端ICTの導入が進む大林組の工事現場

IoT・AIをはじめとするテクノロジーの進化やBIMやクラウドといった情報プラットフォームの普及などにより、今や建設業においても先端ICTの活用は不可欠でその可能性は無限大です。デジタル推進部はこれからも次世代のICTを探求し続け、大林組グループの成長に必要なICTソリューションを提供していきます。



# Member & Career Step

1. 職種
  2. 出身学部 学科
  3. これまでの勤務地
  4. 担当する仕事のキーワード
  5. 現場で感じた良いギャップ
  6. 目標
  7. 業務内容およびやりがい
  8. 入社の際
- ※5～8はいずれかに回答

## 大内 泰貴 Ouchi Taiki | 現場研修

1. 建築
2. 工学研究科 建築・都市科学専攻
3. 福岡
4. コンクリート工事
5. 現場は温かい人が多く、職人さんとの人間関係は想像以上に構築しやすかったです。今は現場研修の最中ですが、その中でiPadが手放せないほど役に立つことを実感しました。
6. BIMによるデータ連携を施工性の向上やロボット等の無人化へ活用することが目標です。



## 佐藤 洋平 Sato Yohei | グローバルICT推進室

1. 建築
2. 創造理工学研究科 建築学専攻
3. 千葉（現場）～東京（グローバルICT）
4. 検査支援システム、ドローン、デジタルサイネージ
6. 建設業×ICTのトップランナーとして、新しいイノベーションを創出していきたいです。
7. ゼネコンのシステム開発は「現場」というユーザーに対してソリューションを提供します。ユーザーが同じ会社にいることで、新しい技術を積極的に試せることがダイナミックで、やりがいもあります。
8. 建設業界のICT化に可能性を感じ、大林組は業界の中でも意欲的にICT活用に取り組んでいると感じています。



## 野口 傑史 Noguchi Takashi | PDセンター

1. 建築
2. 工学研究科 建築・都市科学専攻
3. 千葉（現場）～東京（PDセンター）
4. BIM、ネットワーク、データベース
5. 資機材の整理整頓が行き届いていることです。
6. より効果的なBIM活用を行うことができるネットワーク環境の構築やデータ管理の仕組みづくりを突き詰めていきたいです。

## 町田 啓悟 Machida Keigo | 建築工事事部

1. 設備（電気）
2. 理工学研究科 情報工学専攻
3. 東京（設計）～徳島（現場）～香川（積算）
4. 病院
5. 思っていたよりすぐに現場生活に慣れました。
6. 建物設備へのIoT技術導入に取り組みたいです。

## 古閑 勇祐 Koga Yusuke | 現場研修

1. 設備（電気）
2. 融合科学研究科 情報科学専攻
3. 大阪（設計）～沖縄（現場）
4. 小学校
5. 職人さんが優しいことです。
6. 社内用アプリのブラッシュアップやBIM機能の拡充に取り組みたいと考えています。



3rd year

## 井内 新也 Inouchi Shinya | 情報エンジニアリング部

1. 設備（電気）
2. 先進理工学研究科 電気情報生命専攻
3. 大阪（設計）～東京（現場）～東京（情報エンジ）
4. 病院ICT設計、プロマネ
6. ICT設計のプロフェッショナルとして、事業性や使い勝手を最大限に向上させるソリューションを設計・導入できる技術者を目指しています。現在は、情報や建築への理解を深め、マネジメント力を向上すべく取り組んでいます。
8. 大規模なプロジェクトに主導的な立場で携わることができる点、多くの他分野の方々と関わり合える点に、他の企業には無い魅力を感じました。また、ジョブローテーションや語学教育制度など、社内教育の内容に共感を持ち入社を決めました。



## 伊東 未奈子 Ito Minako | グローバルICT推進室

1. 設備（電気）
2. 理工学研究科 開放環境科学専攻
3. 東京（設計）～東京（現場）～東京（グローバルICT）
4. 労務管理、IoT・AI
7. 現場で使用するICTツールのマネジメントとIoT・AIに関する調査/研究を担当しています。社内全体の仕事効率化や生産性向上のため、いかにIoT・AIを活用するか、新しい技術やサービスをどう取り入れるか、日々考えています。
8. 歴史に裏付けられた高い技術力だけでなく、先進的な技術も積極的に取り入れていく前向きな姿勢に魅力を感じました。



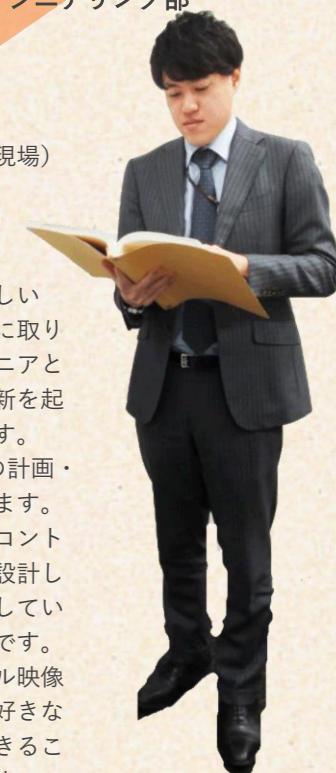
## 大杉 達也 Osugi Tatsuya | グローバルICT推進室

1. 建築
2. 創造理工学研究科 建築学専攻
3. 東京（現場）～東京（PDセンター）～東京（グローバルICT）
4. HoloLens、iPadアプリ管理、Chatbot、ライセンス管理
6. 将来は建築とICTの面から技術開発やプロジェクトをマネジメントし、既存の枠に捉われないスマートなワークスタイルを作っていきたいと思っています。
7. 若いうちから広く、深くプロジェクトに携わり、引っ張ることができる点です。新しい技術やサービスが世の中に登場すれば、建設業での活用方法を考え、新しい業務改善を主体的に提案、遂行することができます。
8. 「自分が建設業のワークスタイルを変えていっている」というスケールの大きさを実感でき、責任とやりがいを感じています。



## 草野 浩輝 Kusano Hiroki | 情報エンジニアリング部

1. 設備（電気）
2. システム理工学部 電気電子情報工学科
3. 東京（設計）～栃木（現場）～東京（情報エンジ）～大阪（情報エンジ）
4. 国際会議場、銀行
6. 進歩、入れ替わりの激しい情報分野の新技术を常に取り入れ、建設情報エンジニアとして、日本の建築に革新を起こしたいと思っています。
7. 建物へのICT設備導入の計画・設計を主に担当しています。さまざまなメーカーをコントロールし、自ら計画・設計したものを「かたち」にしていくのが一番のやりがいです。また、趣味であるホール映像音響設備の導入など、好きなものを「かたち」にできることもやりがいの一つです。



4th year

## 小間 誠貴 Koma Seiki | 現場研修

1. 建築
2. 工学研究科 建築学専攻
3. 兵庫
4. 物流倉庫
5. 職人さんには綺麗好きな人が多いです。
6. AIやMRを用いた技術を開発し、生産性向上と業務効率化を実現させることが目標です。ICTを必要不可欠な存在にし、建設業界を変革したいと考えています。



1st year



# FAQ

## 01 入社後のステップアップについて教えてください。

みなさんが学んできたことを活かすためにも、大林組の本業である建設事業を知る必要があります。そのため、建築、設備（電気）職ともに、入社直後に施工管理をはじめとした建設事業の実務を経験し、その後3～4年間で3つのDX部門（情報エンジニアリング部、iPDセンター、デジタル推進部）のうち2部門の実務を経験しながらトレーニングを行います。このジョブローテーション終了後は、面談や本人の適性によるキャリアプランを基本とした配属になります。

職種	みなさんが学んできた専攻	ジョブローテーション
建築職	建築工学系	・入社後1～2年間で施工管理（現場）の実務を経験 ・実務経験後3～4年間でDXの2部門の実務を経験
設備（電気）職	電気設備工学系、 電気工学・電子工学系、 情報通信工学系、 制御工学、システム工学系、 数理系、経営工学系	・入社後2年間で設備設計と施工管理（現場）の実務を経験 ・実務経験後3～4年間でDXの2部門の実務を経験

異なるDX部門でキャリアを積むことには大きなメリットがあります。ICTという共通軸を基に異なる部門の業務を経験することによって、幅広い視点と知見、および人の繋がりを得ることができます。大林組のDX部門では、一つの部門に固定されることなく、多くの経験を重ねることができるキャリアプランを用意しています。

## 02 DX部門では何人が働いていますか？

情報エンジニアリング部：約25人、iPDセンター：約130人、デジタル推進部：約40人が所属しています（2020年9月時点、社外人材の協力スタッフ含む）。

DX部門の約195人と、情報子会社のオーク情報システム（約220人）が一体となって大林組グループのICTを支えています。

## 03 DX部門の勤務地はどこですか？

DX部門の勤務地は本社（品川）および大阪本店※ですが、大林組が関わるプロジェクトは国内外を問わないため、活躍するフィールドは全世界になります。

※）デジタル推進部は大阪本店に組織はなく本社（品川）のみ。

## 04 海外勤務のチャンスはありますか？

はい。大林組はグローバルな事業活動に積極的に取り組んでおり、そこでのICT活用・展開は欠かせません。技術開発においても、大林組は日本の建設会社として初めて米国シリコンバレーに研究開発拠点「シリコンバレー・ベンチャーズ&ラボラトリ」を開設し、米国のスタートアップ企業や研究機関と協業して新たな技術の研究開発を進めています。

このような、大林組のグローバル展開におけるICTに関わることで、DX部門の担当者も海外出張や海外勤務のチャンスが大いに広がってきます。

また「海外留学制度」があり、海外の学校や研究機関、企業に留学してキャリアアップに生かすことができますので、是非チャレンジしてください。

## 05 必要な資格はありますか？

入社にあたって必要な資格はありませんが、ICT系職員は職種別に取得が奨励されている重点資格（1級建築士や建築設備士等）のほかに、特に「基本情報技術者」と「応用情報技術者」の資格取得を奨励しています。

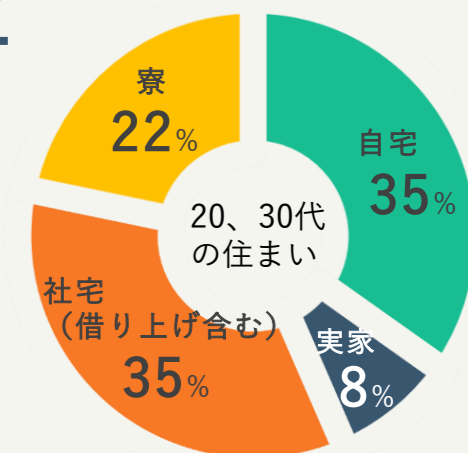
これらの資格取得時には、受験、登録料が会社から支給されるほか、特に重点資格に合格した場合は、会社から合格祝金が支給されます。

## 06 寮・社宅について教えてください。

独身で、自宅から通勤ができない方には、全国各地で独身寮を提供しています。

なお、寮には年齢制限（35歳）が設けられています。結婚している方には、自宅手当の支給、または社宅（借上げ社宅を含む）を提供しています。

このほか、住宅取得を主目的とした社内預金制度もあります。





# 07 女性も活躍できますか？

はい。DX部門はもちろん、大林組では多くの女性社員が活躍しています。2014年に大手建設会社初の女性所長が誕生したほか、ジャカルタの高速道路建設現場の女性所長は、海外土木プロジェクトにおける日本初の女性所長としての活躍が評価され、日経BP社が主催し、内閣府が後援する「ウーマン・オブ・ザ・イヤー2017」を受賞しました。役職者に占める女性比率は業界トップ水準です。

大林組は「人を大切に作る企業の実現」という基本理念のもと、メンタルヘルスケアの強化や受動喫煙防止対策の促進、女性技術者が現場で勤務しやすい環境の整備など、従業員の心と身体の健康づくりに向けた取り組みも積極的に行っています。

## 社員のコメント～女性の働きやすさについて～

男女雇用機会均等法の改正前、まだ女性の採用が努力義務だった当時でも既に女性社員が多く働き、会社全体として女性の労働環境を良くしていく気風がありました。私が大林組への入社を希望した大きな理由のひとつです。

入社後も家庭環境の変化とともに社内制度を活用し、子育て期間中は労働時間短縮制度のおかげで仕事を続けることができました。子育てが落ち着いてくるとともに仕事の幅を広げ、仕事と家庭のバランスをコントロールしながらスキルアップ、キャリアアップを目指すことが特別なことではない自然な流れとして日々を送っています。

(情報エンジニアリング部 課長)



プロジェクトの中核メンバーとなって説明や作業指示を行っている

# 08 「建築」専攻でなくても大丈夫ですか？

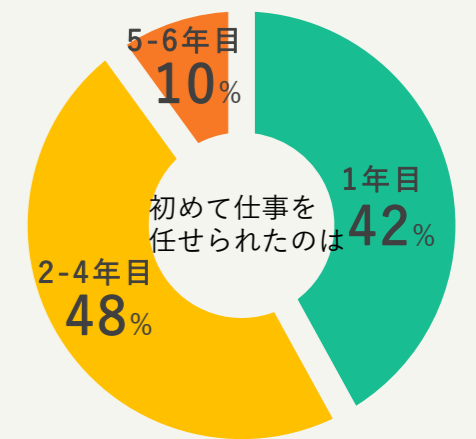
建築を専攻していなくても、ジョブローテーションで実際の建築現場を経験するため、その間に必要な知識は十分習得可能です。大林組では専攻を問わず、多くの社員が活躍しています。



学生時代に学んだことを一言で表すなら

# 09 仕事で困ったときはどうすればよいですか？

会社に入って数年間は初めて経験することも多く、分からないことも多いと思います。このため大林組では、みなさんが入社後に安心して働けるよう一定の期間「指導員」という先輩がついてサポートします。分からないことは、どんどん質問して吸収し、早く一人前の大林組職員を目指してください。



(メモ)

---



---



---



---



---



---



---



---